

令和3年3月

令和3年	1月	～	3月期	実績
令和3年	4月	～	6月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目次

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

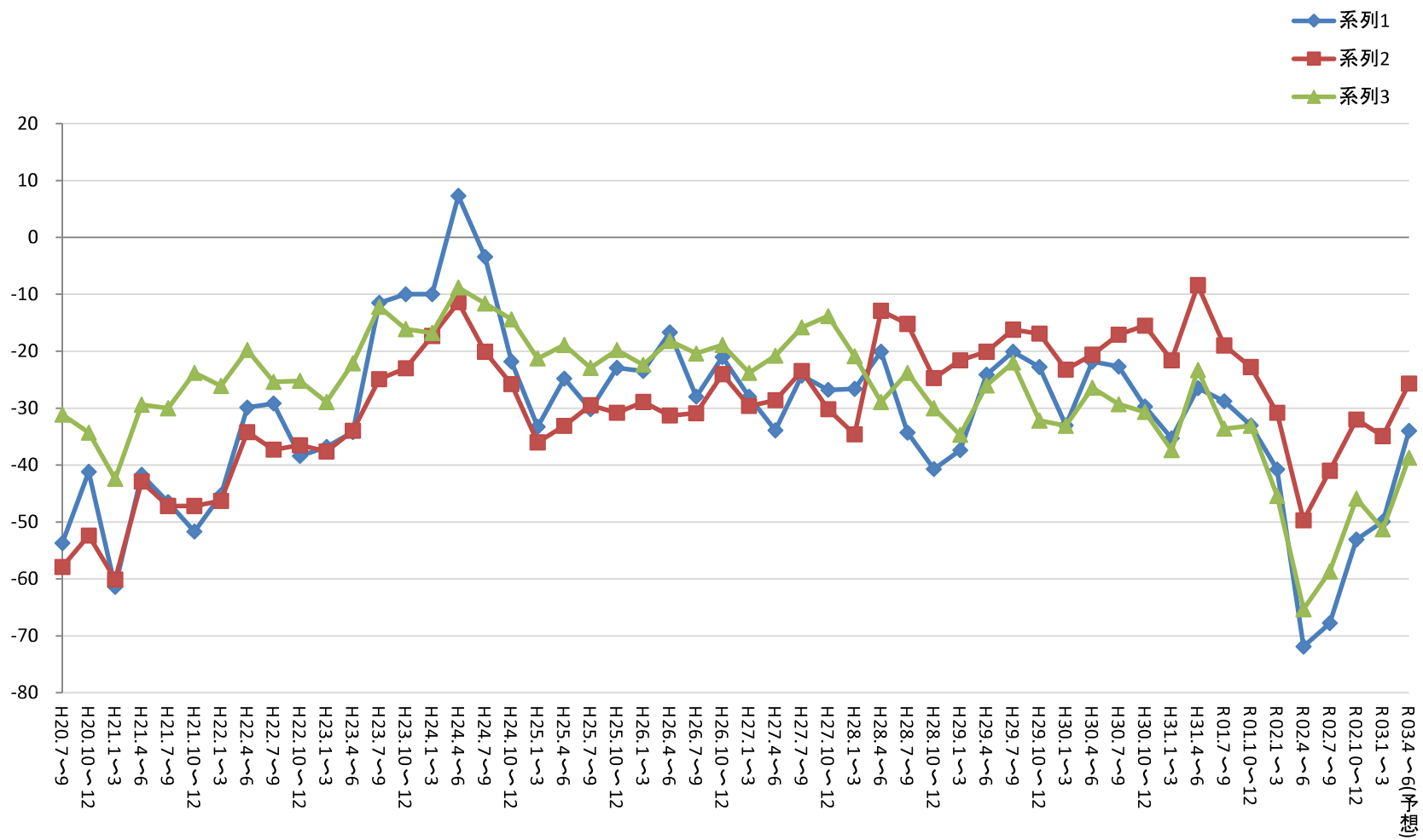
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。





































たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。






[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	令和元年			令和2年			(見通し)		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	令和3年 1~3月	令和3年 4~6月
製 造 業	 曇	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 薄曇
建 設 業	 薄曇	 雨	 雨	 薄曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 曇	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△ 10.0	△ 10.1 ~△ 30.0	△ 30.1 ~△ 100.0
表 示	 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨

全産業の推移

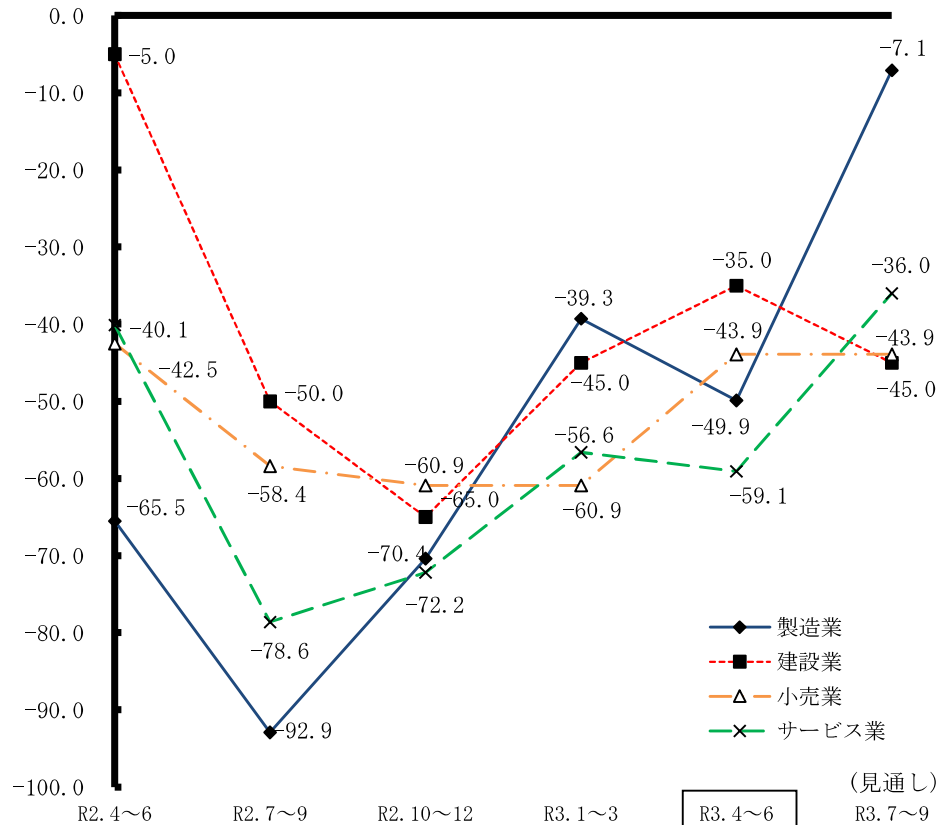
売上高

**建設業、小売業において上昇
製造業、サービス業は低下**

今期は、建設業が2期連続の上昇となり、10.0ポイント増加して△35.0まで回復しました。また、小売業も大幅な上昇となり、17.0ポイント増加の△43.9となり回復基調がみられます。他方、2期連続して上昇していた製造業は低下に転じ、10.6ポイント減少の△49.9となりました。また、サービス業も僅かながら低下に転じ、2.5ポイント減少の△59.1となっています。

来期は、製造業において売上高D・Iの大幅な上昇が予想されるほか、サービス業も上昇が見込まれています。他方、小売業は横ばい、建設業は低下に転じる見込みとなっております。

※ 建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採算

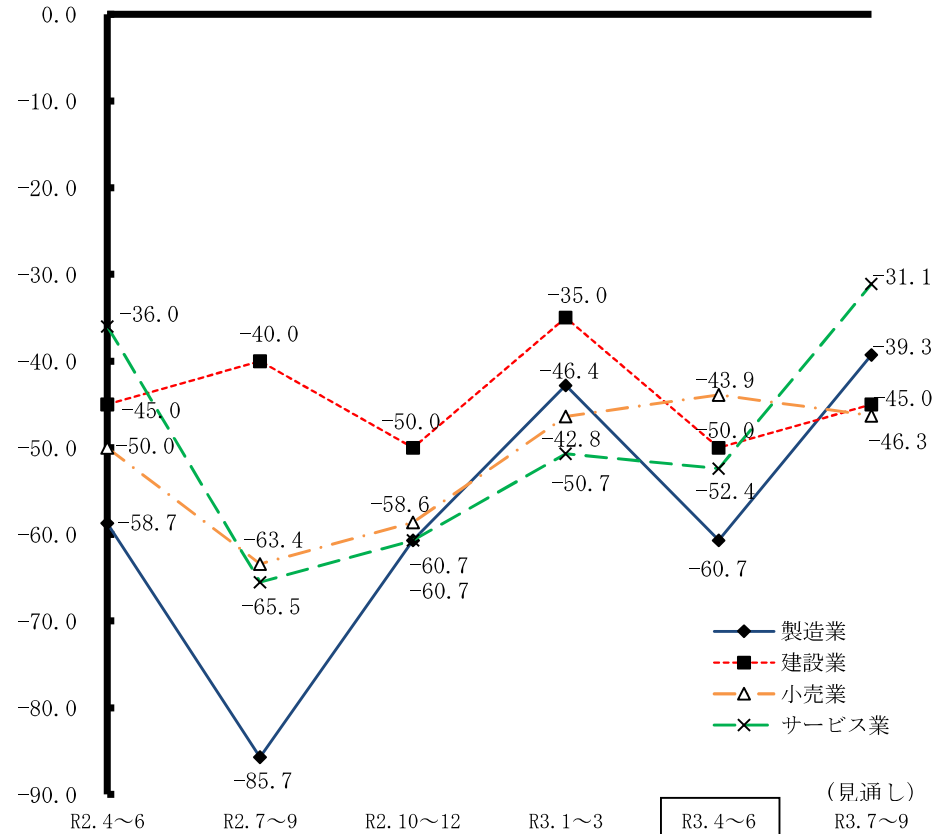
製造業、建設業、サービス業において採算D・Iが悪化

今期は、2期連続して改善がみられた製造業、サービス業が悪化に転じ、製造業は14.3ポイント減少の $\Delta 60.7$ 、サービス業が1.7ポイント減少の $\Delta 52.4$ となりました。また、建設業も今期は悪化となり15.0ポイント減少して $\Delta 50.0$ となりました。

小売業は今期も僅かながら上昇して3期連続の改善となり、1.1ポイント増加の $\Delta 43.9$ となっています。

来期は、製造業、建設業、サービス業において改善が見込まれるものの、小売業においては悪化に転じることが予想されています。

※ 採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

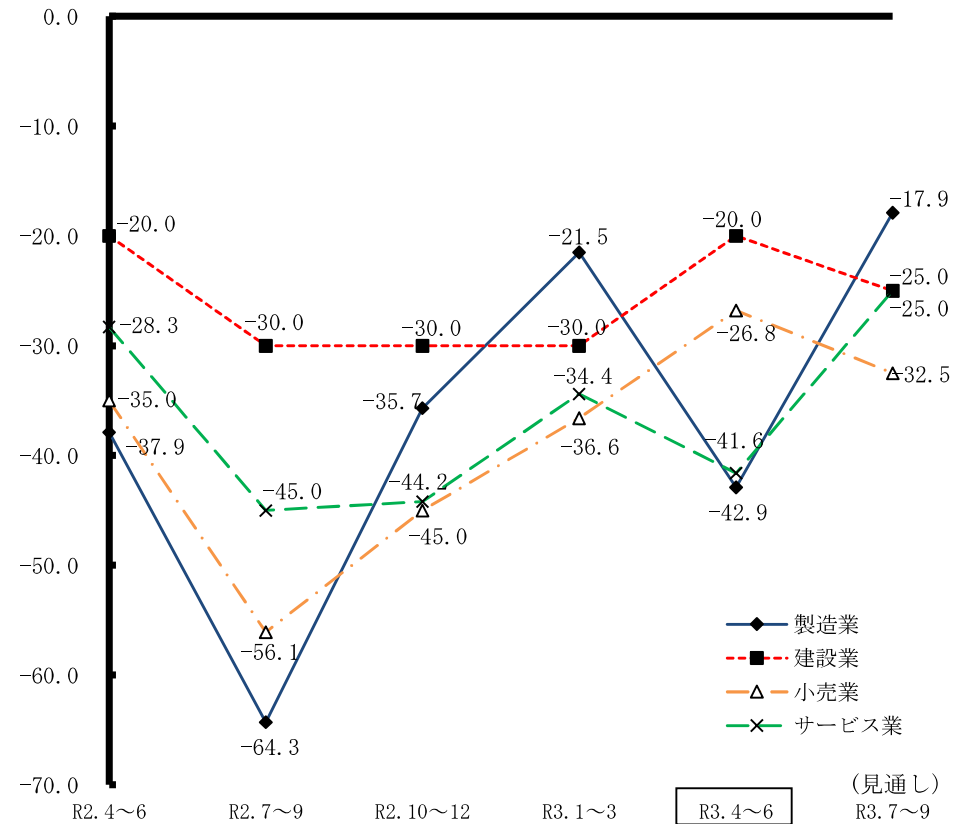
資金繰り

**建設業、小売業で資金繰りが改善
製造業、サービス業が悪化**

今期は、小売業が3期連続の改善となり、9.8ポイント増加の $\Delta 26.8$ となりました。また、2期連続して横ばいにとどまっていた建設業も改善に転じ10.0ポイント増加して $\Delta 20.0$ まで回復しています。

2期連続して10.0ポイント以上の上昇がみられた製造業は、今期は大幅な悪化となり21.4ポイント減少して $\Delta 42.9$ まで悪化しました。また、サービス業も7.2ポイント減少して $\Delta 41.6$ まで悪化しています。

来期は、製造業、サービス業は大幅な改善が見込まれますが、今期改善基調にあった建設業、小売業においては再び悪化に転じると予想されています。



製造業の推移

売上高

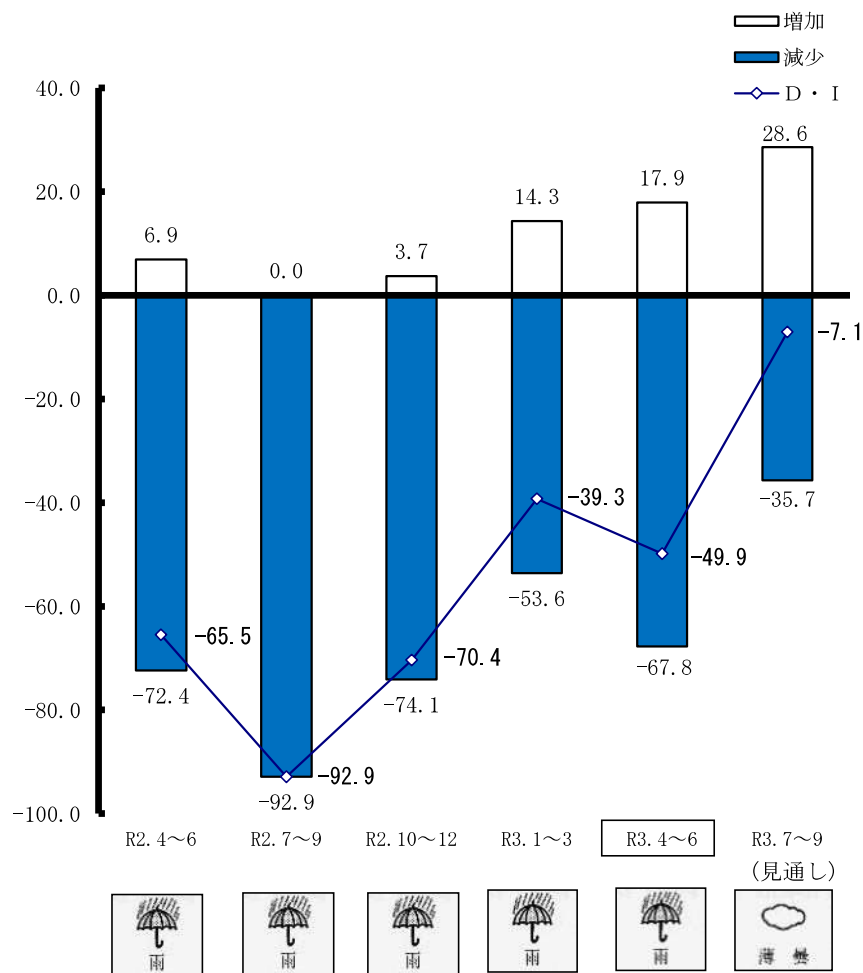
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が増加したものの、売上高減少企業の割合が14.2ポイントの大幅な増加となったことから、売上高D・Iは10.6ポイントの減少となり、 $\Delta 49.9$ まで低下しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が引き続き増加し、また、売上高の減少を予想する企業割合も減少することが見込まれ、売上高D・Iはマイナス幅を大幅に縮小し、 $\Delta 7.1$ まで上昇し、景況天気図も雨から薄曇りへと変化することが予想されています。



製造業の推移

採算

<今 期>

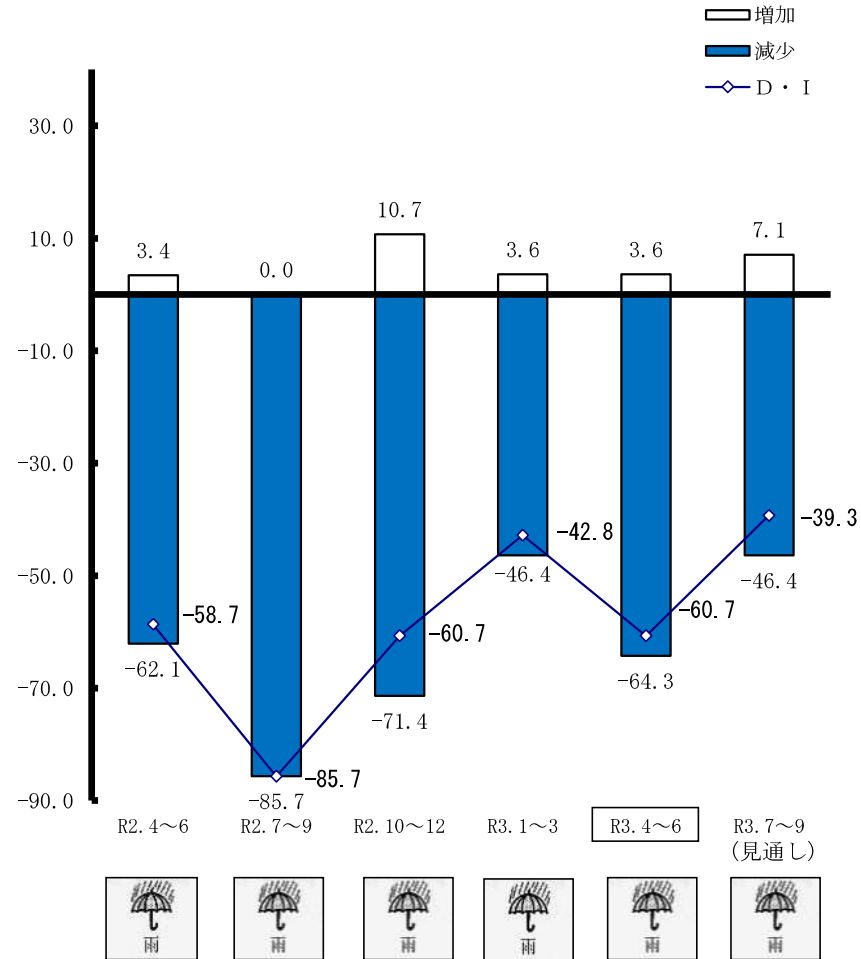


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が横ばいにとどまった一方、採算が悪化した企業の割合が大幅に増加したため、採算D・Iは17.9ポイント減少し、△60.7まで悪化しました。

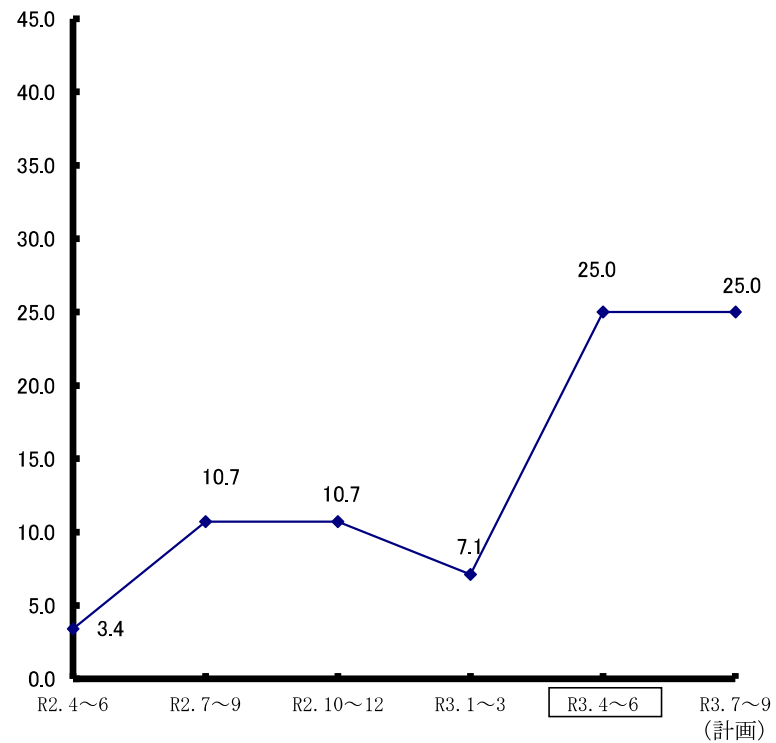
来期は、採算の改善を予想する企業が増加し、採算の悪化を予想する企業割合も減少することから、採算D・Iは大幅に改善することが予想されています。



設備投資

前期減少に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は、今期は大幅な増加となり、25.0まで上昇しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は今期に引き続き高い割合を維持することが見込まれ、25.0を維持する見通しです。



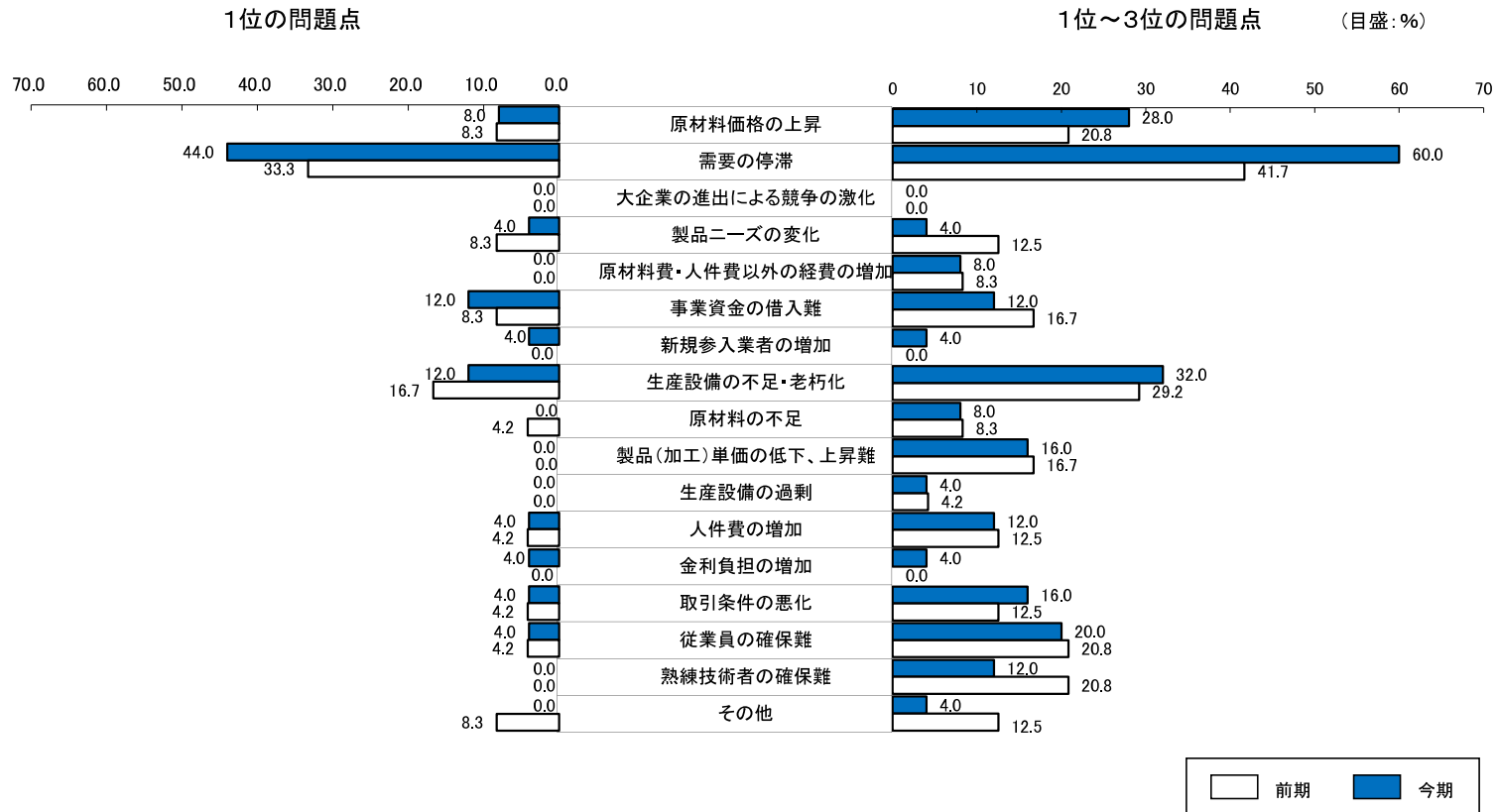
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>

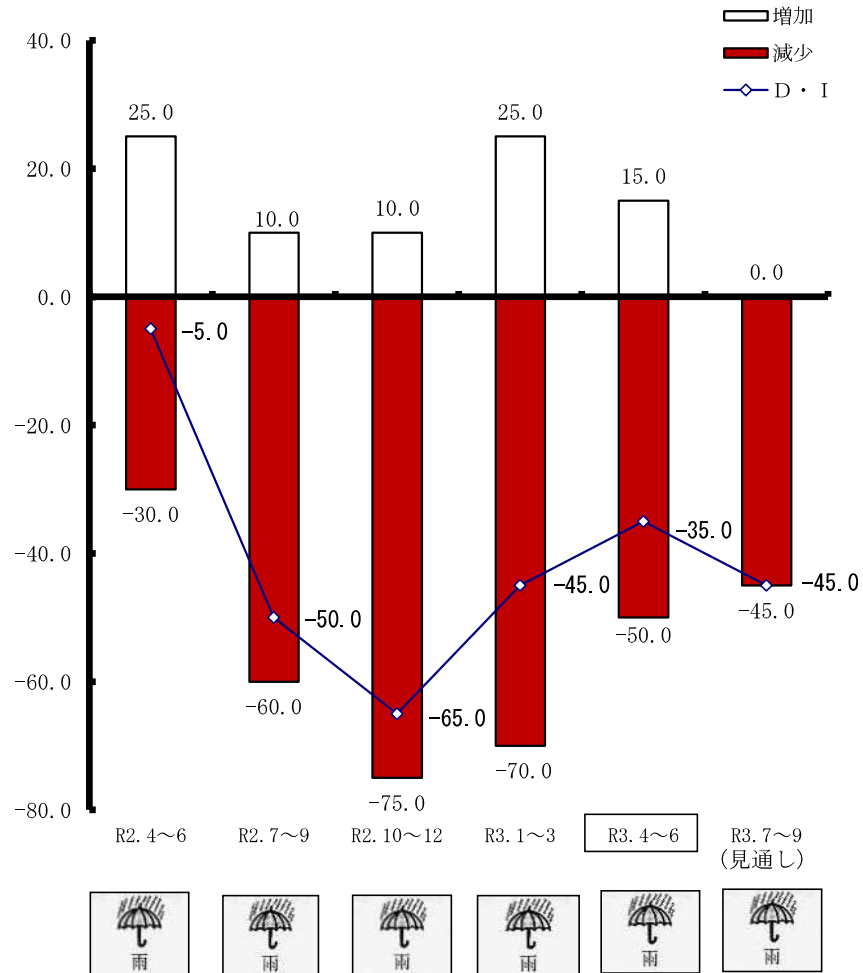


<来期見通し>



今期は、売上高が増加した企業割合が10.0ポイント減少したものの、売上高が減少した企業割合が20.0ポイントと大幅に減少したことにより、売上高D・Iは前期に引き続き上昇し、 $\Delta 35.0$ まで好転しました。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合は引き続き減少が見込まれるものの、売上高の増加を予想する企業の割合が0.0まで低下するため、売上高D・Iは低下に転じ、 $\Delta 45.0$ まで悪化することが予想されます。



※ 建設業の売上高は完成工事高

建設業の推移

採算

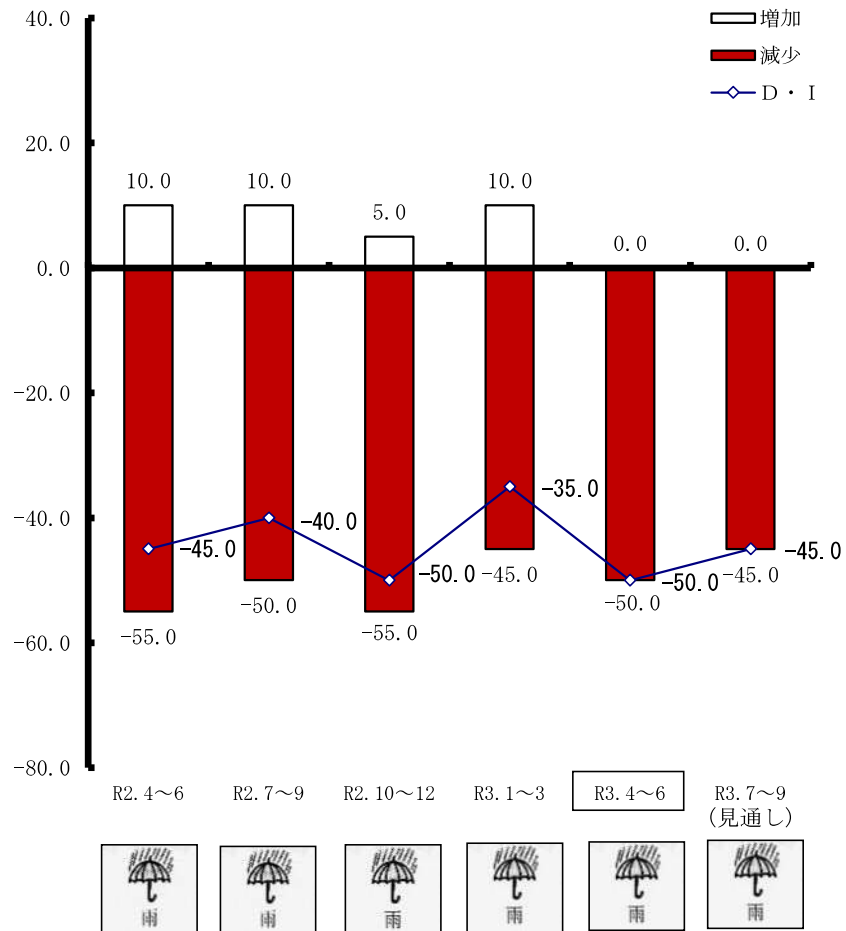
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算好転を挙げた企業の割合が10.0ポイント減少して0.0まで低下し、また、採算が悪化した企業の割合が5.0ポイント増加したため、採算D・Iは15.0ポイントの減少となり、50.0まで悪化しました。

来期は、採算の好転を予想する企業が引き続き0.0にとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合の減少が見込まれることから、採算D・Iは改善することが予想されています。



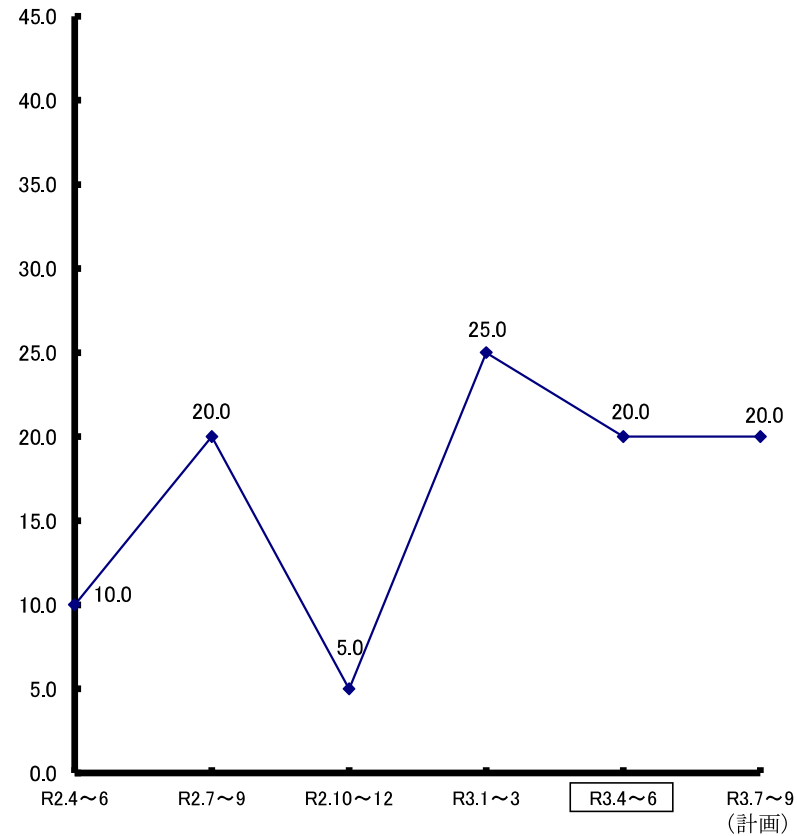
建設業の推移

設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期大幅に増加していましたが、今期は減少となり20.0にとどまっています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期と同じレベルを維持し、20.0となる見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

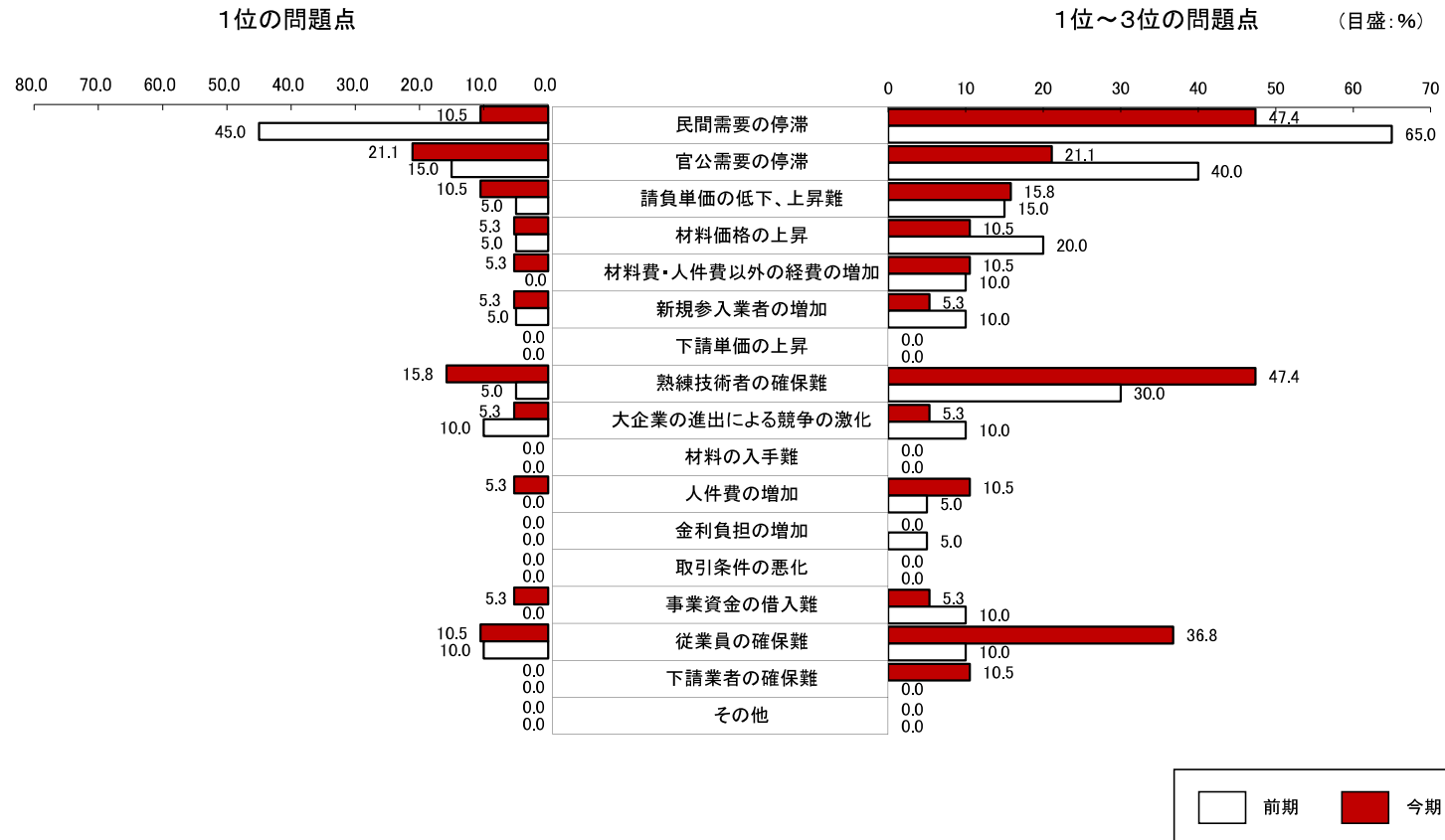


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



小売業の推移

売上高

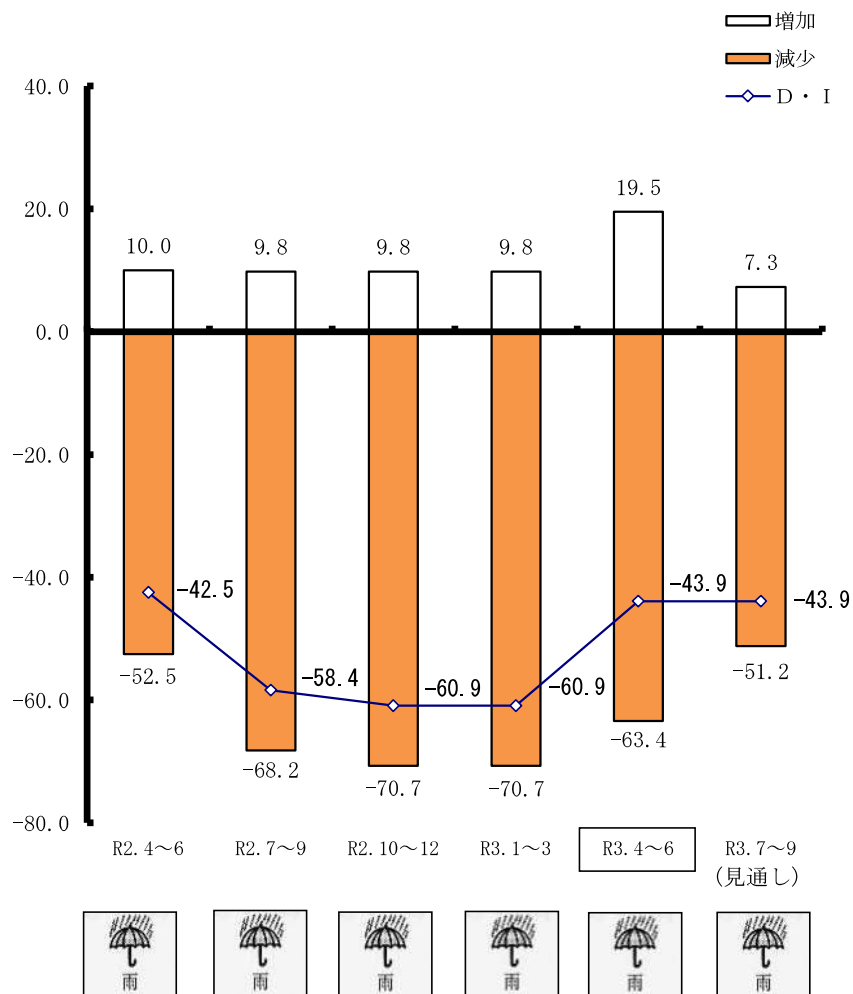
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が10.0ポイント近く増加し、また、売上高減少企業の割合が減少したため、売上高D・Iは17.0ポイントの大幅な増加となり、△43.9まで改善しました。

来期は、売上高増加を予想する企業割合は減少するものの、売上高減少を予想する企業割合が減少することが見込まれるため、売上高D・Iは今期と同じレベルにとどまる見通しです。



小売業の推移

採算

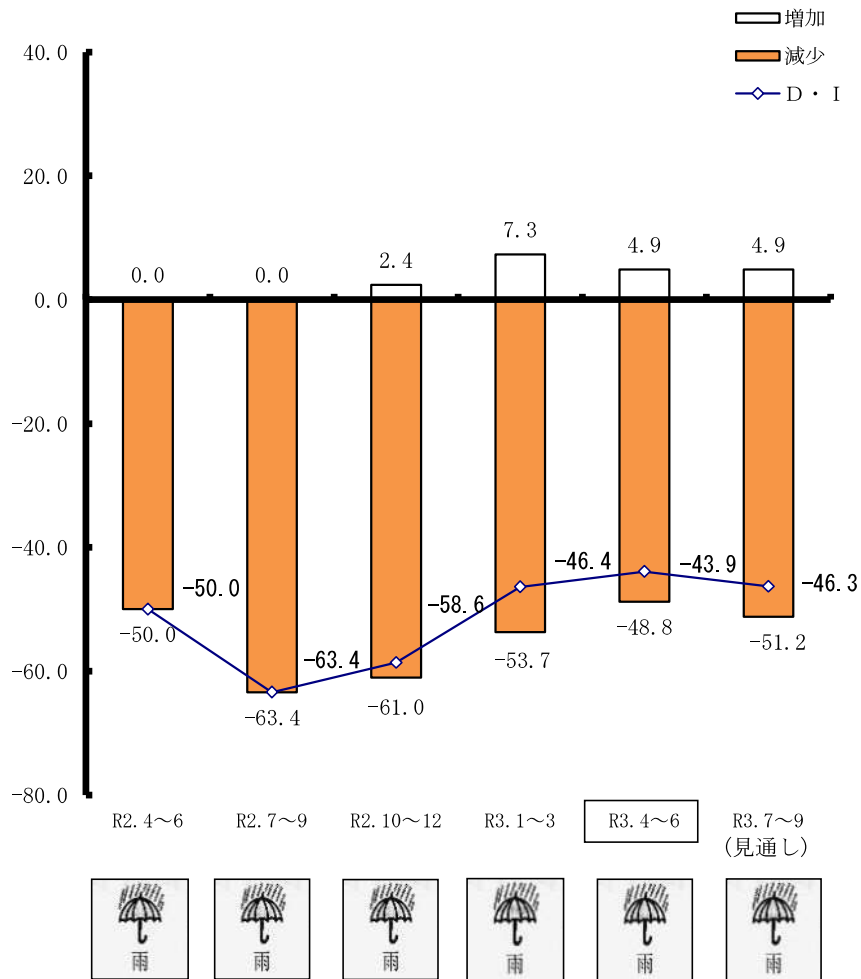
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業の割合が2.4ポイント減少したものの、採算が悪化した企業割合が、4.9ポイント減少したため、採算D・Iは3期連続の上昇となり、△43.9まで改善しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合は今期と同じレベルとなることが見込まれるものの、採算の悪化を予想する企業割合が増加するため、採算D・Iは再び低下に転じ、△46.3となる見通しです。

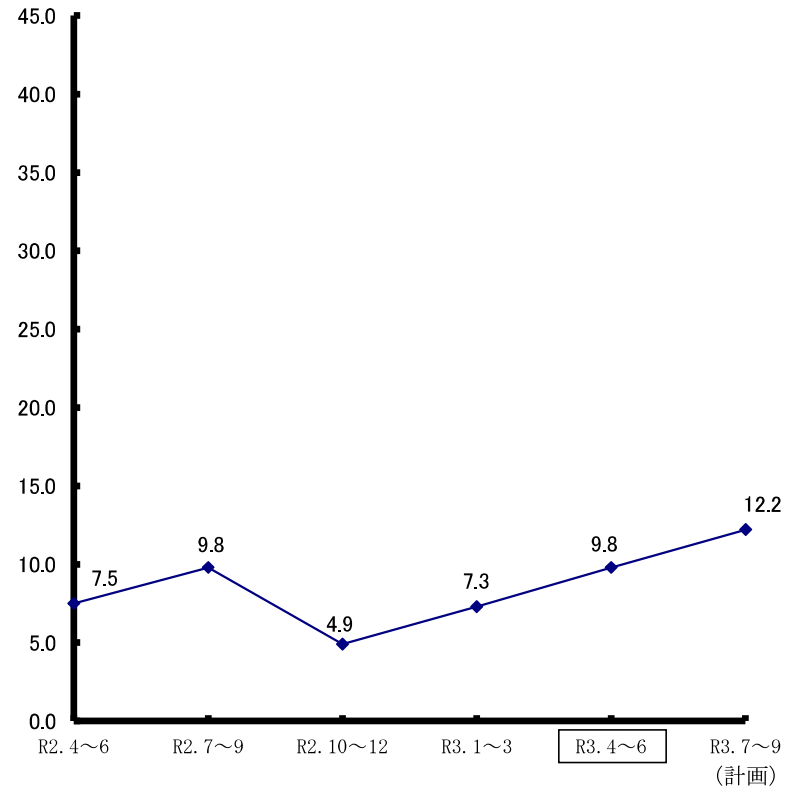


小売業の推移

設備投資

小売業において今期設備投資を実施した企業数の割合は、2期連続して増加し、9.8まで上昇しました。

来期も設備投資を計画している企業数の割合が増加し、12.2まで上昇する見通しです。



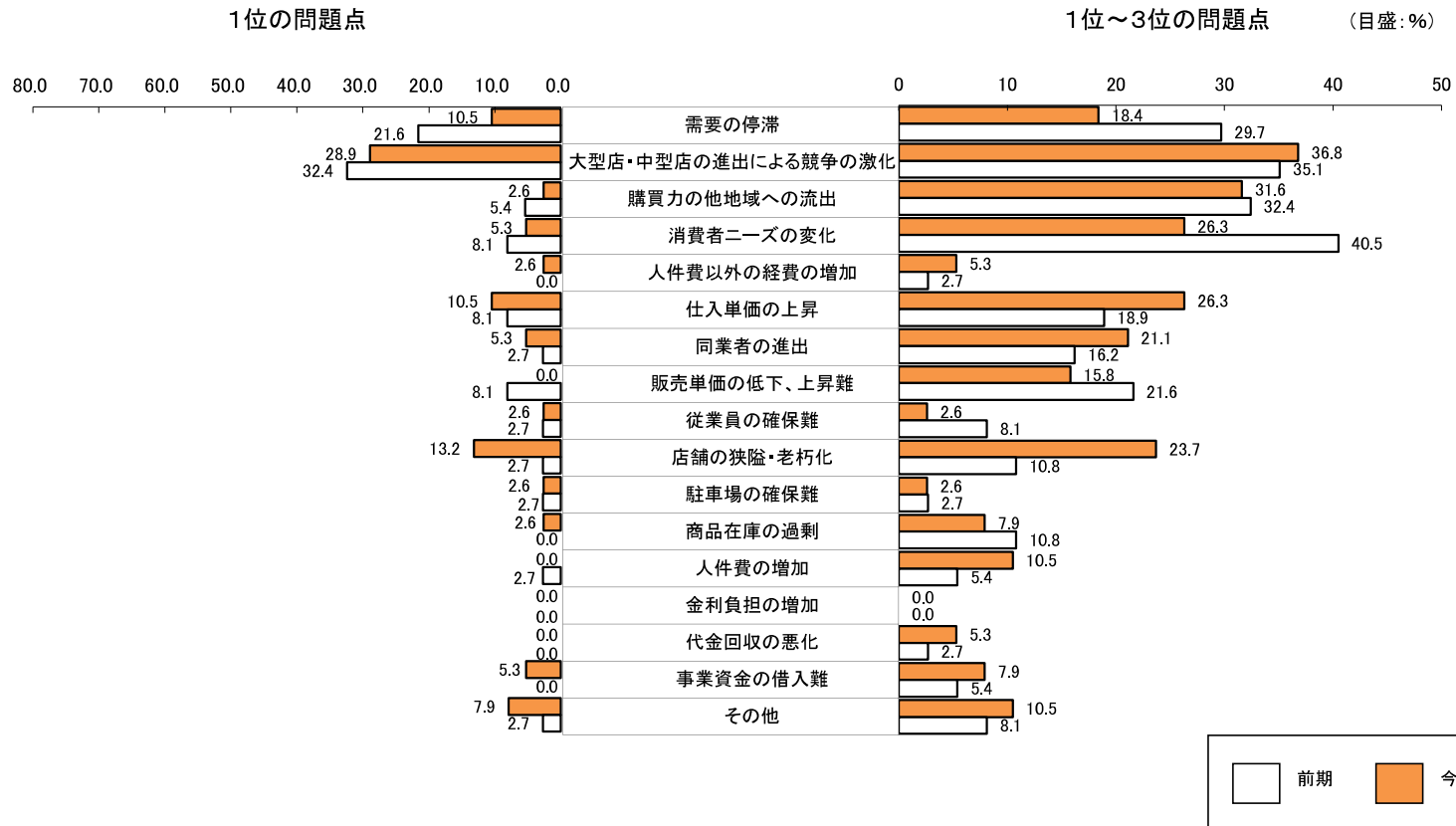
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



サービス業の推移

売上高

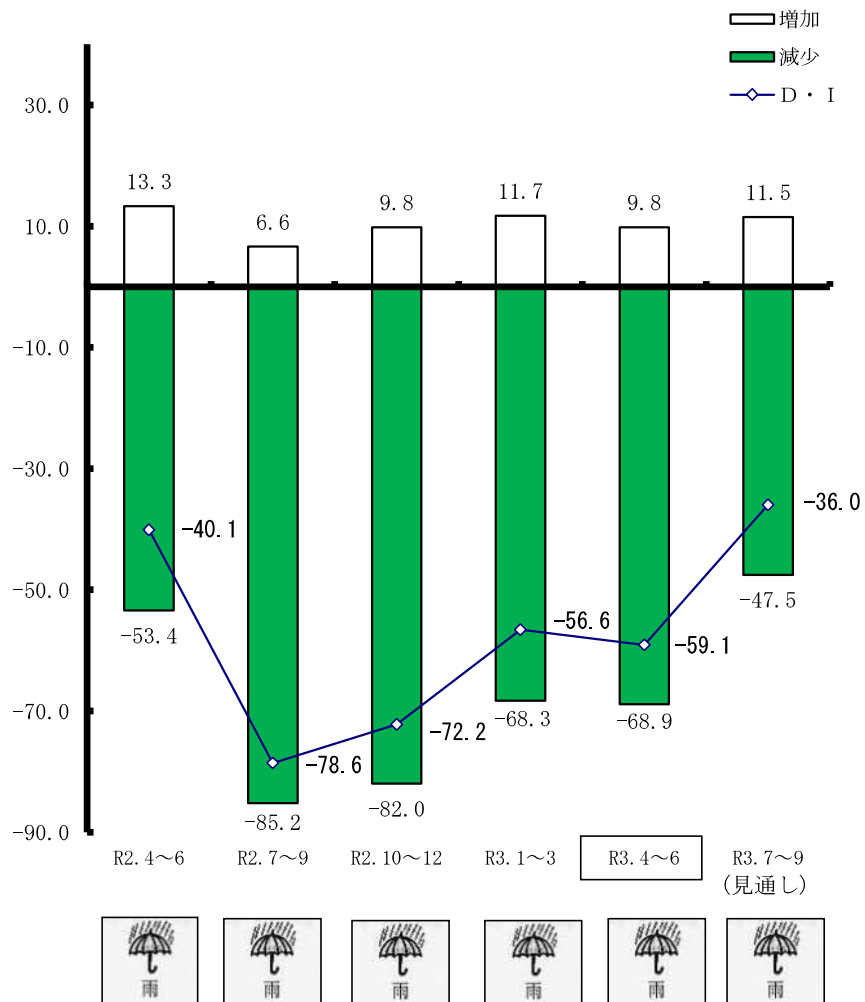
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が1.9ポイント減少し、また、売上高減少企業の割合が0.6ポイント増加したため、売上高D・Iは低下に転じ、 Δ 59.1となりました。

来期は、売上高増加を予想する企業割合が僅かながら増加し、売上高減少を予想する企業の割合が21.4ポイント減少することから、売上高D・Iは大幅に上昇してマイナス幅を縮小し、 Δ 36.0まで回復する見通しです。



サービス業の推移

採算

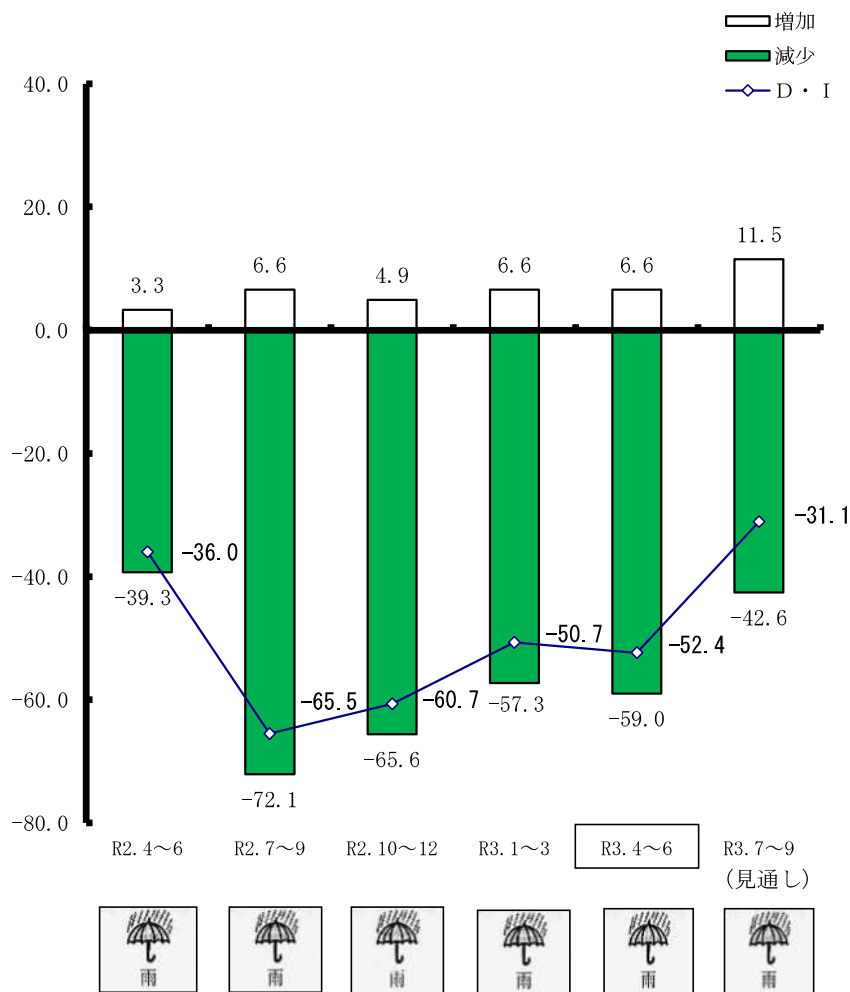
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合は6.6と前期と横ばいにとどまったものの、採算が悪化した企業割合が1.7ポイント増加したことから、採算D・Iは僅かながら低下し、 Δ 52.4となりました。

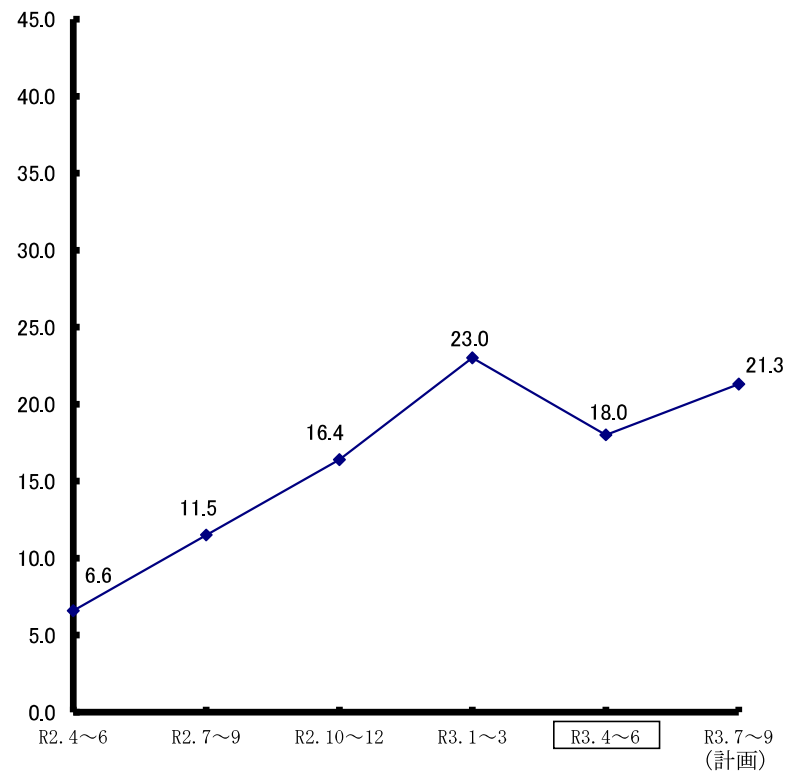
来期は、採算の好転を予想する企業割合が増加し、採算の悪化を予想する企業割合が大幅に減少することから、採算D・Iはマイナス幅を大幅に縮小して Δ 31.1まで改善する見通しです。



設備投資

3期連続して増加していた設備投資を実施した企業数の割合は、今期は減少に転じ、18.0にとどまりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び増加に転じ、21.3まで上昇する見通しです。



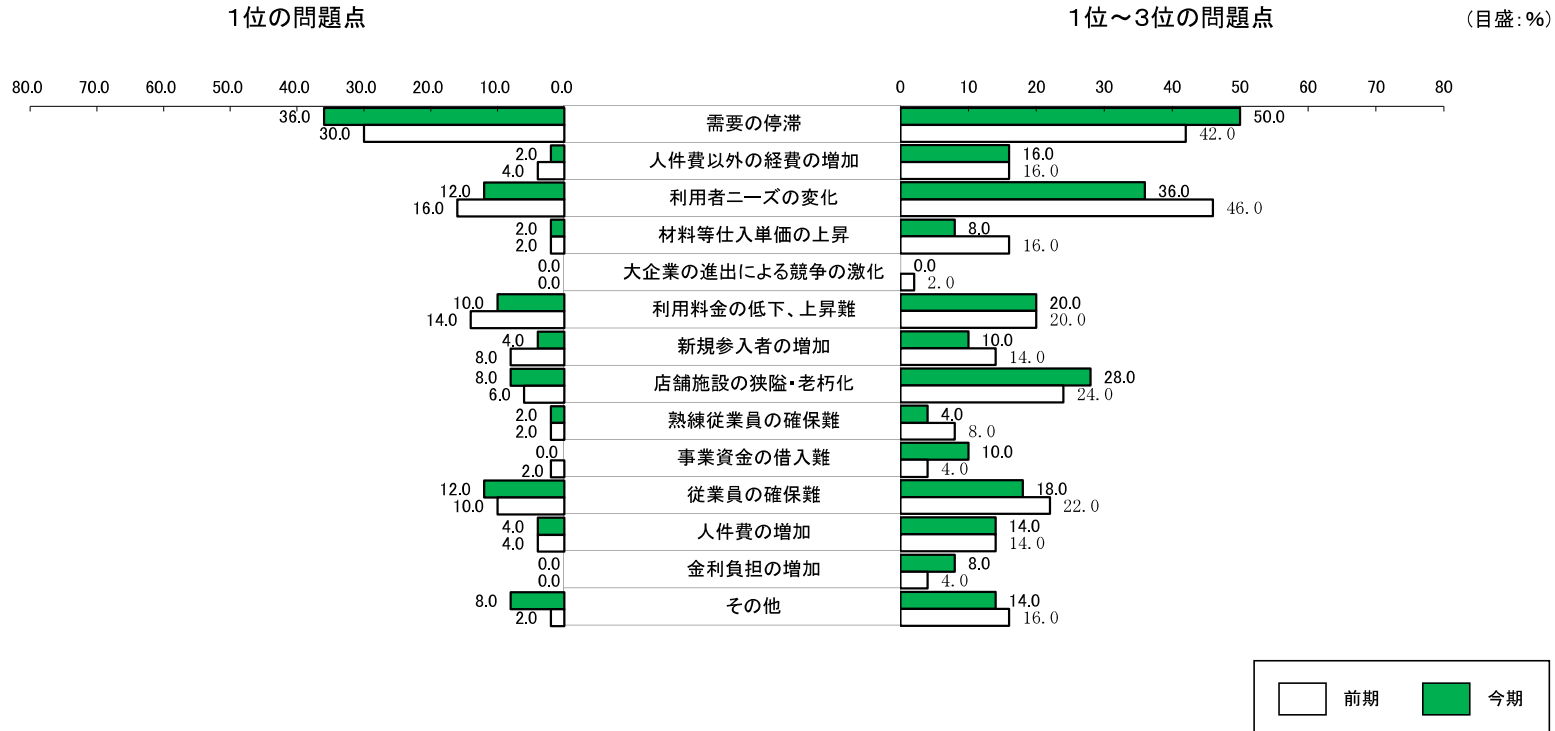
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

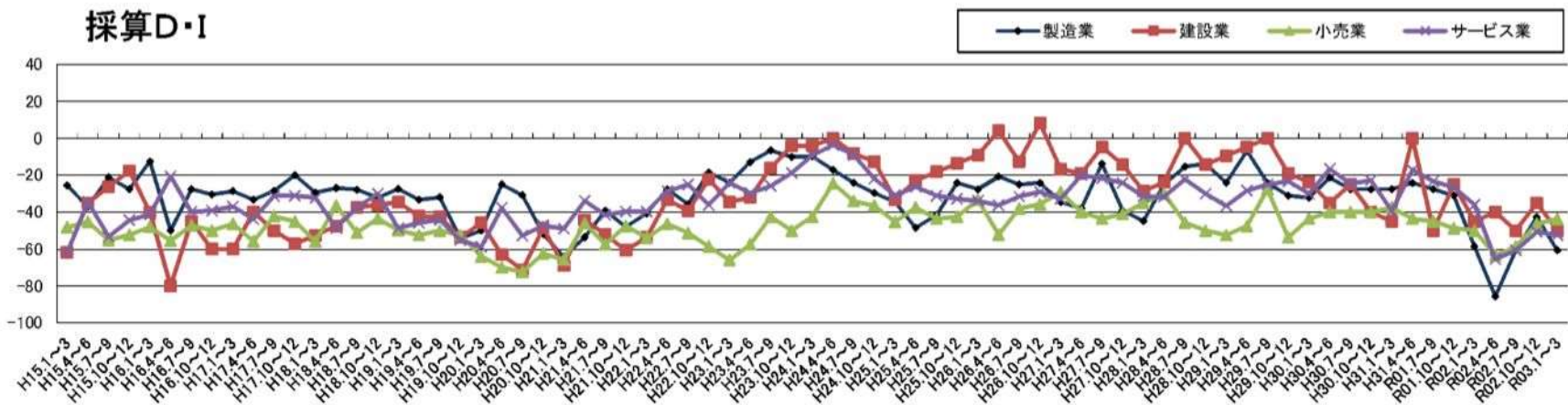
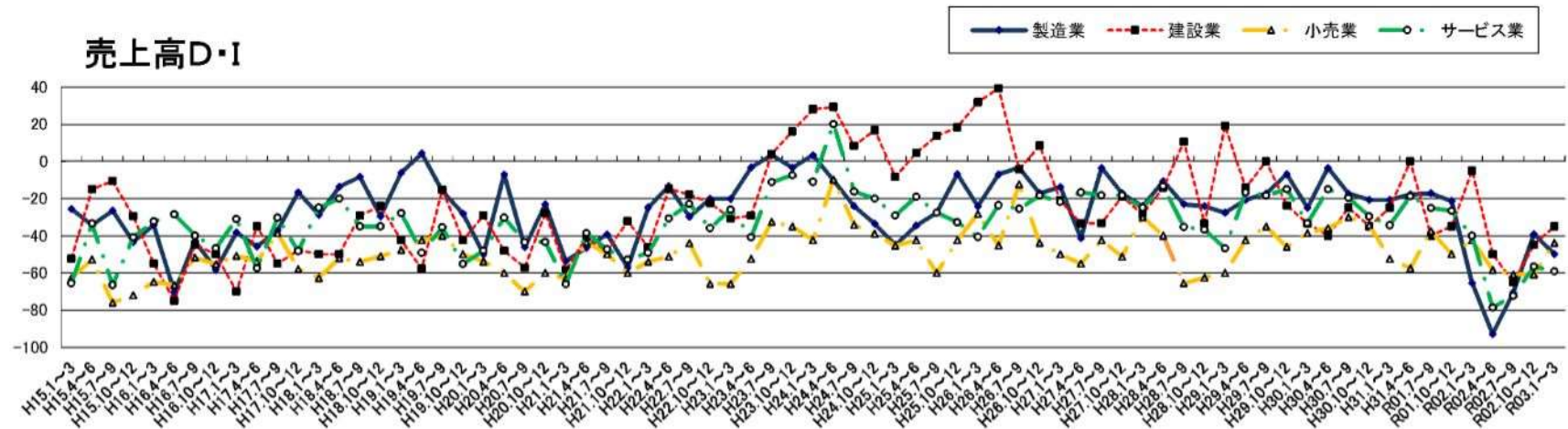
経営上の問題点

岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調査対象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 八幡平市、滝沢市、矢巾町、平泉、住田町
(商工会名) 大槌、山田町、野田村、洋野町、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調査対象期間 令和3年1月～3月を対象とし、調査時点は令和3年3月1日としました。
3. 調査方法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	28 (18.7)	28 (18.7)	100.0
建設業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業	41 (27.3)	41 (27.3)	100.0
サービス業	61 (40.7)	61 (40.7)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. その他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。